

第2章

まちづくりの総合的課題 と目指す方向性

1. 地域の枠を超えた
総合的・一体的なまちづくり
2. 地域の個性を生かした
魅力あるまちづくり
3. 都市づくりの新たな価値観に
基づく着実なまちづくり
4. 共に考え行動する協働・
連携のまちづくり

第2章 まちづくりの総合的課題と目指す方向性

1. 地域の枠を超えた

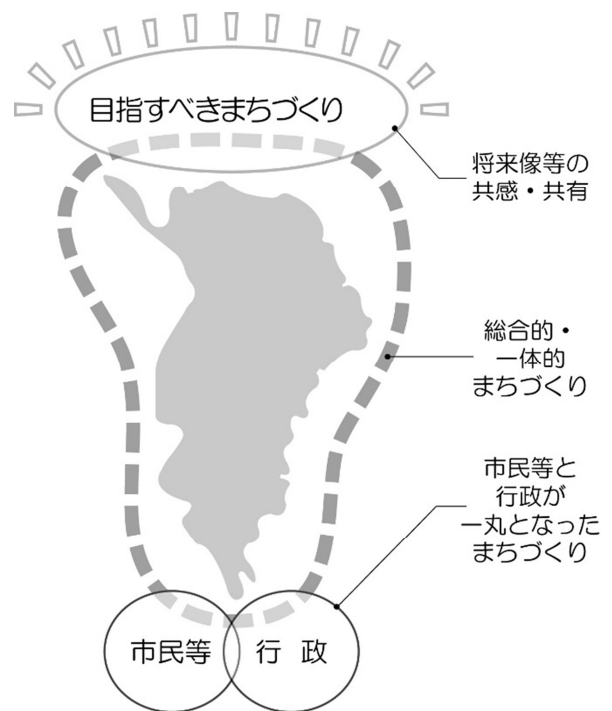
総合的・一体的なまちづくり

本市においては、各地域の抱えるまちづくりの課題に対し、市民・企業・団体・行政が一丸となって、解決に向けた取組を推進しています。

各地域の課題に対しては、本市の将来の都市像を明確にして広く市民等と共有し、共感を得ながら具体的に対策を講じていくことが重要です。

また行政においては、地域の枠を超えた大局的な視野に立って、同じ目標に向かってまちづくりに取り組むことも求められます。

このため、市の発展の方向性を踏まえ、各地域が取り組むまちづくりを生かしながら、総合的・一体的なまちづくりを目指します。

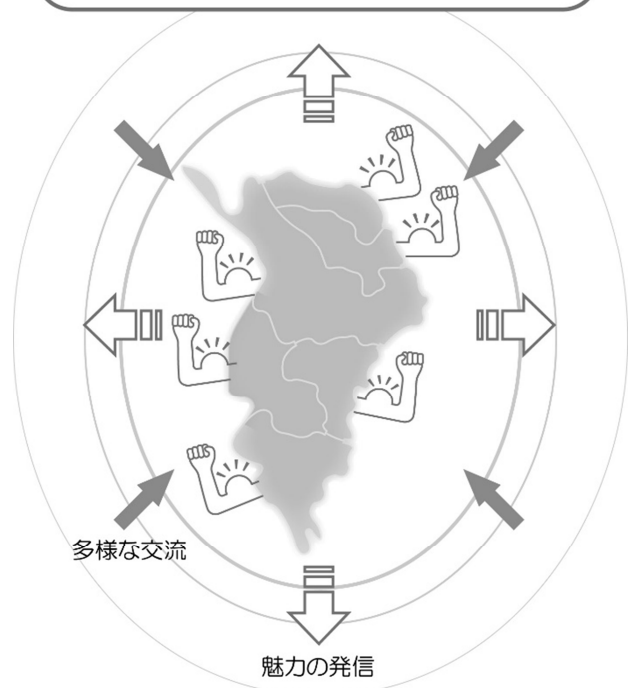


2. 地域の個性を生かした魅力あるまちづくり

本市は、都市機能が充実する中心市街地の顔と歴史的町並みの顔を有する「栃木地域」、豊かな田園と都市が調和する「大平地域」、多様性のある湿地環境とレジャー・スポーツスポットを有する「藤岡地域」、豊かな自然環境と広域交通網の要衝となる「都賀地域」、歴史・文化資源と産業拠点を有する「西方地域」、そして、自然と観光資源が調和する「岩舟地域」の6地域がそれぞれ個性ある街を形成しています。

各地域がこれまで育んできた資源や、新たな発展のために活用を図る資源等を埋没させることなく、各地域の個性や魅力の更なる磨き上げと情報発信を推進するとともに、広域ネットワークの利便性を生かした周辺都市との広域的な交流・連携を更に推進するまちづくりを目指します。

地域の個性・魅力アップと発信～多様な交流

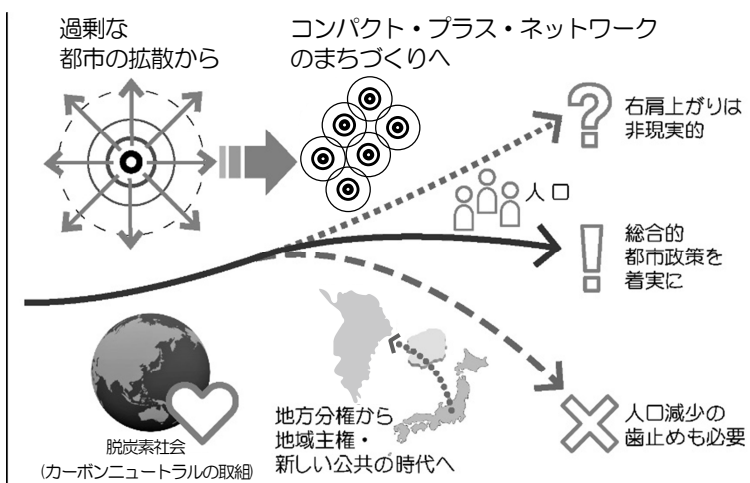


3. 都市づくりの新たな価値観に基づく着実なまちづくり

都市計画は、これまで人口規模の拡大とそれに対応した都市づくりが主流でした。しかし、本市を含め全国的な人口減少が進むなか、こうした発想を転換し、地域課題や市民ニーズ等に柔軟に対応した都市づくりが求められます。

その転換とは、多様な政策を包含した総合的都市政策の推進、都市構造の再編も含めたコンパクト・プラス・ネットワークによるまちづくり、再生可能エネルギーの導入やごみの減量等によるカーボンニュートラル・脱炭素社会の形成、既存施設を活用したまちづくりへの転換、少子高齢社会や近年頻発・激甚化する自然災害に対応した安全・安心に暮らせるまちづくりの推進、地域主権の推進等が挙げられます。

本計画では、各地域において取り組んできた都市計画の経緯やまちづくりの方向性を踏まえながら、都市づくりの新たな価値観に基づき、市民の安全・安心でいきいきとした暮らしを確保するとともに、快適性・利便性の向上を推進する着実なまちづくりを目指します。



4. 共に考え行動する協働・連携のまちづくり

市民等が「自分たちのまちは、自分たちが創る」といった意識のもと、市民・企業・団体・行政が相互にパートナーシップを確立し、協働のまちを目指すことが大切です。本計画においても、意向調査に基づく市民ニーズを踏まえた将来都市像や施策・事業を設定し、まちづくりの目標等の共有を図ります。

市域の一体的なまちづくりにおいては、交通・産業のネットワークはもちろん、人や情報のネットワークについても、市全体での連携が求められます。

このように、本計画では、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、市民・企業・団体・行政が、まちづくりの目標等を共有しながら、それぞれの特性や役割に基づき、共に考え行動する協働・連携のまちづくりを目指します。

